







































今帰仁村観光案内図
 緑と歴史の今帰仁村

◆ 今帰仁村

位置
 今帰仁村は、沖縄本島北部、本部半島の北東部(北緯25°30'03"、東経127°58'23"5)に位置し、那覇市から北へ約55km、東なら重富郡にかけはる遠く、南西及び北西は本部半島、東はシラホに接し、北東は日本海に面する。自然環境が豊かである。

面積
 本島は3,527km²、面積は1,173km²、総面積の約33%を占める。













No 131412



歴史文化センター
NAKIJIN VILLAGE MUSEUM

大人個人
Adults Individual
当日限り有効



No 131412



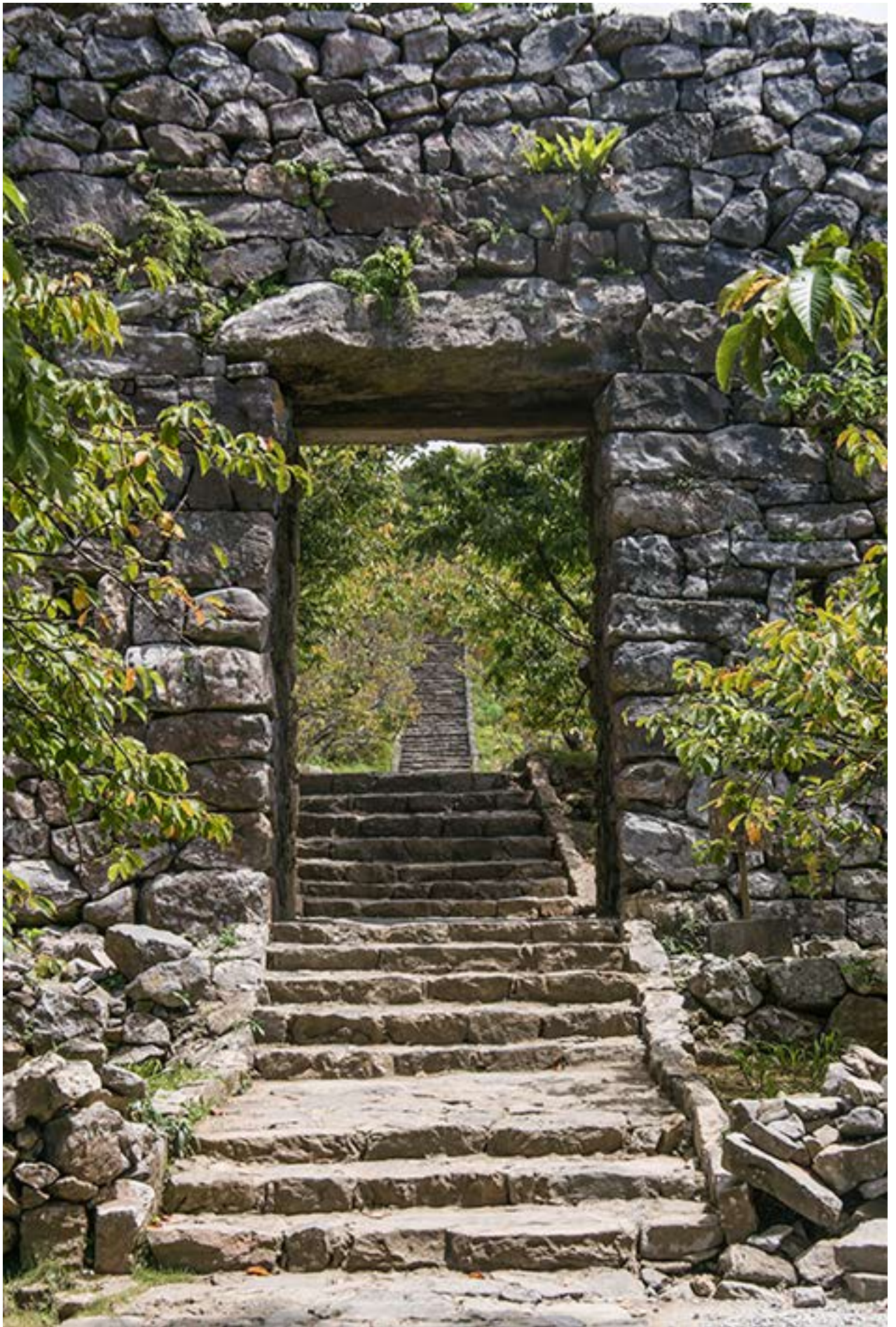
今帰仁城跡
NAKIJIN GUSUKU SITES

大人個人
Adults Individual
当日限り有効































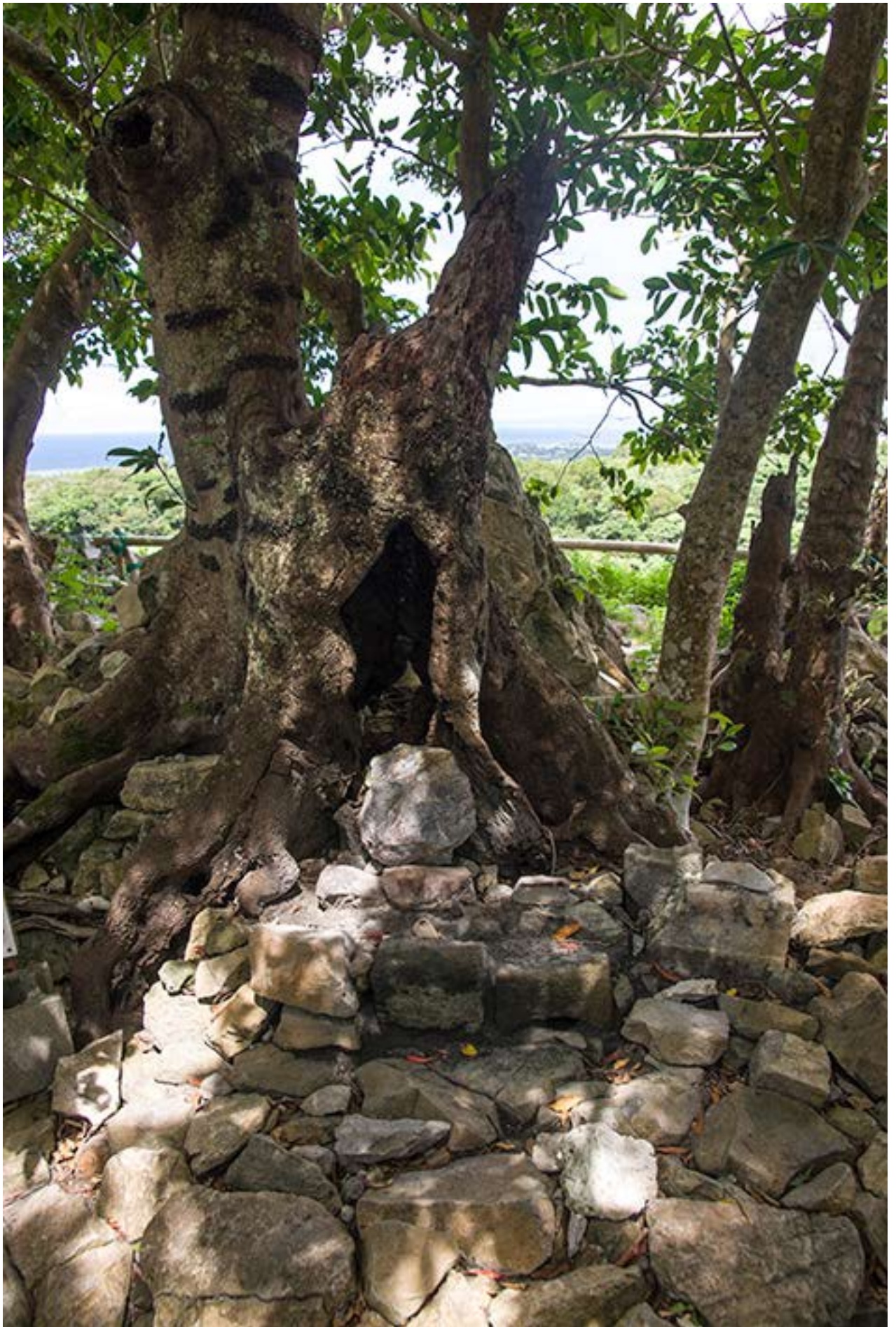
































志慶真門郭

志慶真門郭(シジマジョウ)



ここは俗に志慶真門と呼ばれている所で、城内で最も東に位置する郭です。
志慶真門郭の発掘調査が昭和55年～57年度に実施されました。発掘の結果、志慶真門郭と大庭(ウミヤ)との通路石敷が確認されています。郭内の当初の地形はゆるやかな傾斜地で、宅地の造成工事により段差を設け、建物の建立がなされています。建物は約6m×6m或いは4m×5m程度の規模で中に炉跡があります。瓦が出土しないことから茅か板葺の掘立柱建物であったと考えられます。また、建物間を結ぶ石敷道や石段なども検出されました。それらの遺構は修景整備がなされています。出土品には、武器類・陶磁器・装飾品・子供用玩具などがあり、これらの出土遺物より「家族単位」の生活が営まれていたことが考えられます。石垣は地山を削り、自然の岩を利用して積み上げる工法がなされています。
なお、郭の南側には志慶真門跡が明らかになっています。

昭和58年3月18日

今帰仁村教育委員会















ろあと ほったてばしら
炉跡を伴う掘立柱建物跡

Hottatebashira Building (Embedded Pillar Building) Site with Fire Pit Remains 带有火炉痕迹的筑前干栏式建筑遗迹 파로터와 기둥구멍이 남아있는 건물터

2007~2009年の発掘調査で、方形に掘られた穴(炉跡)とその周囲に6本の柱穴が確認されました。方形の穴の中は火を受けて赤く焼けており、底の部分からは焼けて炭になったイネやムギなどの植物の種が見つかりました。このことから調理に使われた遺構と考えられました。城内ではこのような遺構がまだ確認されていないことから、この場所(外郭)は台所として使用されていた可能性が考えられます。また、同時に出土した中国の焼物の年代から、使われた時期は14世紀後半~15世紀前半と考えられます。



炉跡の写真(2009年撮影)

During the 2007-2009 excavation survey, a squarely dug hole (the pit) and surrounding six pillar holes were discovered. The insides of the square-shaped hole were burnt red by fire, and carbonized rice and wheat seeds were found in the bottom. From this, the remains were thought to have been used for cooking. Since such remains have not yet been found inside the castle grounds, it is possible that this location (the outer ward) was used as a kitchen. Also, from dating the Chinese pottery which was found at the same time, it is believed that this area served its purpose between the 14th century and the early 15th century.

在2007年至2009年的挖掘调查过程中，发现了挖成方形的火坑(火炉痕迹)和周围竖立有6根柱子所留下的圆孔。方形洞穴中呈火烤后的红色。底部有烧成炭灰的稻子和麦类等植物的种子。可见这里曾用来做饭的地方。城堡没有发现相同的遗迹。所以这个地方(城外)有可能被作为厨房使用。另外从一起出土的中国陶器的年代来判断,使用的时期大约在公元14世纪后半至15世纪前期。

2007~2008년에 실시한 발굴조사로, 평형으로 파인 구멍(파로터)과 그 주위의 6개 기둥구멍이 확인되었습니다. 평형 구멍의 내부는 불에 타서 붉게 그을렸으며 바닥부에서는 불에 타서 숯이 된 벼과 보리 등의 씨앗이 발견되었습니다. 이 점으로 보아 조리해 사용하였던 용구라고 믿어집니다. 성내에서 이러한 용구가 아직까지 발견되지 않은 점으로 미루어 이 곳(외곽)이 부엌으로 사용되었을 가능성이 있습니다. 또한 동시에 출토된 중국 도자기의 연대로는 사용된 시기가 14세기 후반에서 15세기 전반기로 추정됩니다.



古宇利殿内

Fui Dunchi 古宇利殿内 (祠堂) 후이둔치 (古宇利殿内)

沖縄の方言で古宇利のことを「フイ」と言うことから、「フイ殿内」と呼ばれています。祠は古宇利島のある北東の方位を向いていて、今歸仁村の唯一の離島である古宇利島の人々が旧8月に遙拝します。また、今泊の神行事の時には、今歸仁ノロが拝みます。平成22年に古写真を基に移築、復元されました。

Because the name "Kouri" is pronounced "Fui" in the Okinawan dialect, this structure is called "Fui Dunchi." The small shrine faces northeast, in the direction of Kouri Island. Kouri is the only outer island that is a part of Nakijin Village and the Island's residents pray at this small shrine in August of the lunar calendar. Prayers are offered by the Noro Priestesses of Nakijin during the religious events of Imadomari. This structure was reconstructed based on old photos and relocated to this site in 2010.

由於沖繩當地方言把古宇利讀作「フイ（讀音）」，因此這裡也被稱為「フイ殿内」。祠堂面向東北方向的古宇利島。今歸仁村唯一的離島古宇利島上的住民在陰曆8月時朝該祠堂遙拜。此外，在舉辦今泊的祭神活動時，今歸仁神女也在此參拜。2010年（平成22年）根據照片資料，遷築并復元。

오키나와 방언으로 고우리(古宇利)를 '후이'라고 하는 것에서 유래하여 후이둔치(古宇利殿内)라고 불린다. 사당은 고우리섬이 있는 동북쪽을 향하고 있으며, 나키진촌의 유일한 이도인 고우리섬 사람들이 음력 8월에 참배한다. 또한, 이마도마리(今泊)에서 진행되는 신제에는 나키진 여사제가 주관한다. 2010년에 옛사진을 토대로 옮겨서 복원하였다.



●古宇利殿内の古写真 森成コレクション/写真集 沖縄 原野山園友(1984年出版より)
Old Picture of Fui Dunchi 森成コレクション/写真集 沖縄 原野山園友(1984年出版より)
-古宇利殿内内蔵- 森成コレクション「森成集 沖縄」(1984年出版)
-森成集 森成集 森成集 森成集 森成集 森成集 森成集 森成集 森成集 森成集











なきじん
今帰仁ノ口殿内火の神の祠

Nakijin Priestess Hinukan Shrine (Nakijin Noro Danchi Hinukan no Hokora)

今帰仁ノ口は今帰仁・親泊・志慶真ムラの3つのムラの

現在ノ口殿内は海岸に近い集落に移っている。写真は昭和30(1955)年の祠の様子で、かつては瓦葺きであったことがわかる。

The Nakijin Noro was a priestess who conducted and oversaw religious rites with the assistance of other priestesses at sacred sites located at Nakijin Castle and Nakijin, Oyadomari and Shigema communities. The shrine was relocated and is now found in a community near the shore. This picture, taken in 1955, indicates that ceramic tiles were used for the roof of this shrine.



(写真：新城穂祐 撮影「なきじん研究」Vol.11 2002年より)
Photo courtesy of Shinjo Tokuyuki (Nakijin Research Vol. 11, 2002)











あ お り や え
 阿 応 理 屋 惠 ノ 口 殿 内 火 の 神 の 祠
 Aoriyae Priestess Hinukan Shrine (Aoriyae Noro Dunchi Hinukan no Mikoto)

阿 応 理 屋 惠 ノ 口 は 開 得 大 君 を 頂 点 と し た 神 人 組 織 の
 中 で 三 十 三 君 と 呼 ば れ る ノ 口 の 一 人 で 有 る 現 在 は 火 の
 神 を 祀 る 祠 だ け が 有 る が かつて こ こ は ノ 口 反 駁 だ
 た と 考 え ら れ て 居 る 祠 の 中 に は 香 炉 が 設 置 さ れ 「
 得 福」 の 巫 額 が 掛 か っ て 居 た が 現 在 は 紛 失 し て 居 る。

The Aoriyae Noro was a priestess ranked as a Sanjuusan
 Kimi of the royal government's religious organization with
 Kikoe Obgumi, the highest-ranking priestess, on top. The
 shrine now only houses objects used to worship gods
 overlooking the lives of community members, but in the past
 was believed to be the residence of Aoriyae Noro. A placard
 once hung in the shrine, but its whereabouts are now unknown.











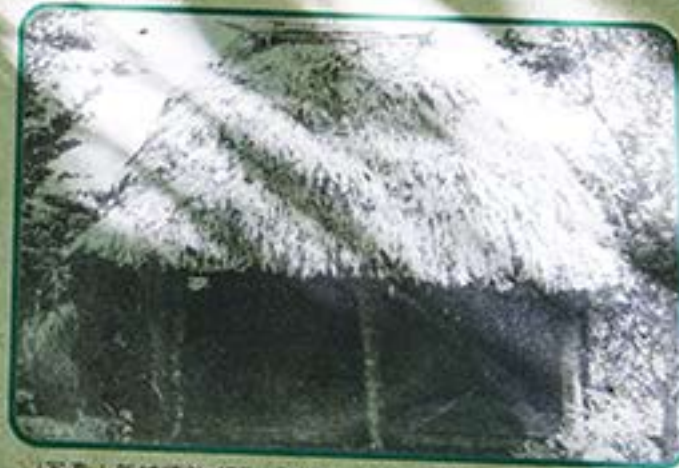


とものかねのくわい殿内火の神の祠

Tomo no Kane Priestess/Himokan Shrine (Tomo no Kane Noro Dauchi/Himokan no Hokora)

供のかねノロは地元ではトムヌハーニと呼ばれてける。今様仁ノロの次位神役で、「供の」は「お供の(従者)」の意味と解されている。祠は別名下の殿と呼ばれる。現在は他の拜所と同様祠だけが残るがノロ屋敷の旧宅であったと考えられている。

Tomo no Kane Noro was a priestess known as *Taunru nu Haani* by locals. "Tomo no" is interpreted as a follower or attendant and indicates that she followed the priestess Nakijin Noro in authority. This shrine, also called the "lower shrine," is believed to be the official residence of the Tomo no Kane priestess. As with other religious sites, the outer structure only now remains.



(写真：新城徳裕 撮影『なまじん研究』Vol.11 2002年より)
Photo courtesy of Shinjo Tokayū (Nakijin Research Vol. 11, 2002)

















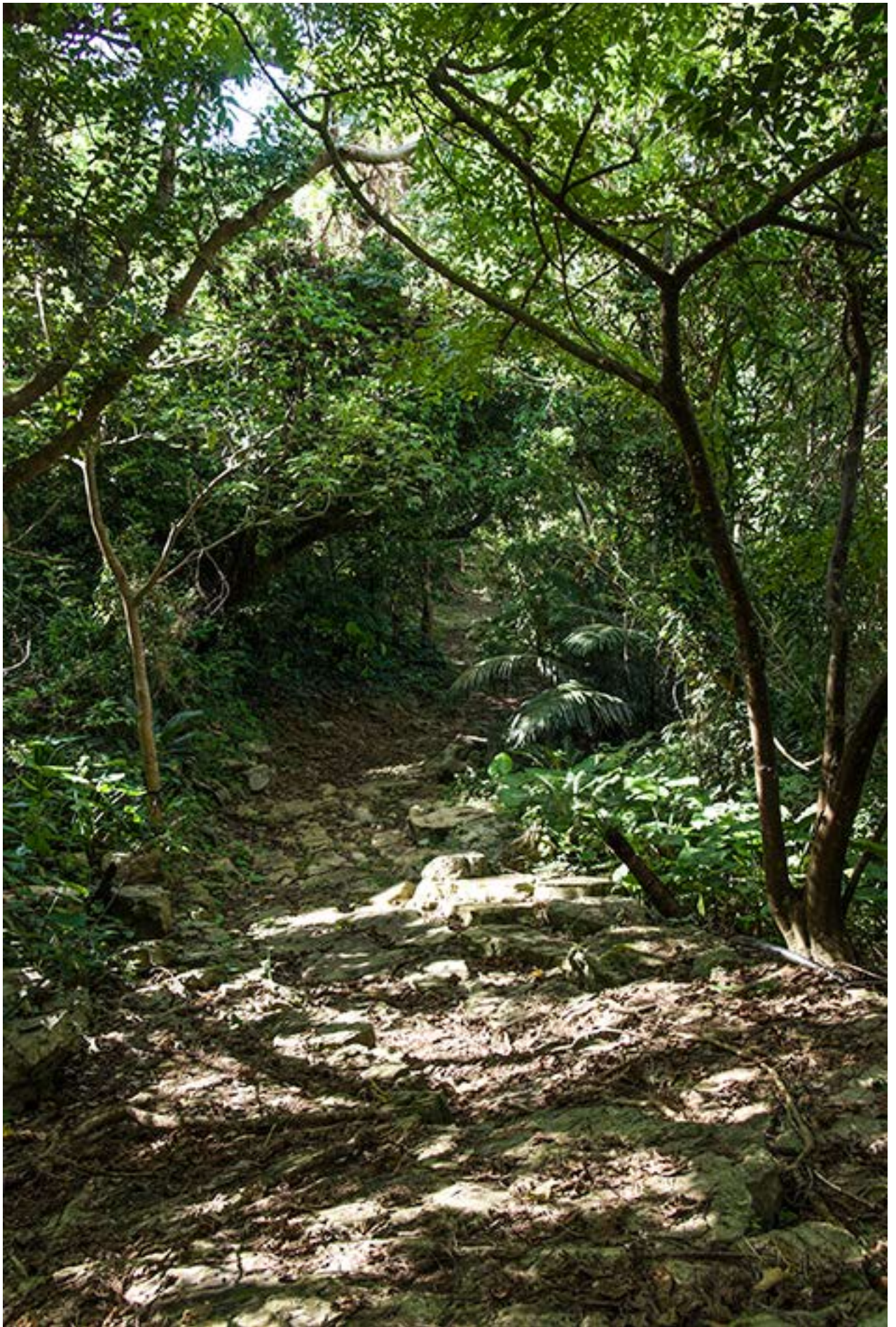














エーガー
親川

Sacred Spring (Egga).

この地の聖地は古くは神代で選ばれる泉(カ-)
である。現在でもハ-ウガミ(泉神)の奉祀に多く
の方々が訪れている。豊富な水を提供し、かつては今
州に比ぶる泉もここで湧き出したことである。
カ-は縮じて聖なる泉となった川のことである。

Several religious sites exist in the ruins of the old
Castle. One of these sites is this spring, considered
sacred and worshipped by many people during a special
praying ritual held at spring. It is known as Egga in the
local language. Kaa or gaa in the local term indicates
sacred springs or rivers. The spring provided a plentiful
supply of water and quenched the thirst of people serving
the castle in the old days.







散策道と親川

この道筋は宿道から親川へ、さ
らにハンタ道を登ると今帰仁グス
クへとつながる。大正5年以前は
今帰仁グスクへの主要道路であっ
た。親川は豊富な水量があり、志
慶真川の途中で地下にもぐり親川
で湧き出している。五月のハーウ
ガミには参拜する一門がいくつも
ある。

今泊だけでなく、中南部から今
帰仁ヌブイで訪れる人々が多い。
また、今泊の人々のウブガーにも
なっていて、そこからナートウガ
ーへ流れ込み灌漑用水も引いてい
る。



▲ 親川から引いた水路(昭和30年代)



▲ ナートウガー沿いの水田(昭和30年頃)



▲ ナート

田園空間整備事業



今帰仁村



















































